健康のひろば

地元の医師がアドバイス

—16—

左の股のでっぱりが！

—十年程前から左の股に脱腸があり、始めのうちは僅かの状態で、痛くも苦しさも感じないのでそのまま手術を受けずにきましたが、月日の経つと共にでっぱりがおおきくなり気にしています。心配ないものでしょうか。

（下川・無職、八十九歳）

—☆—

おそらく診断は左鼠径ヘルニアです。

鼠径部周辺の筋膜などの組織が加齢により脆弱になることで、腹腔内の臓器（小腸や卵巣など）が鼠径部の皮下へ突出することによって起こる病気で、悪性の病気ではありません。

腹腔内の臓器が皮下へ脱出する通路（ヘルニア門といいます）が、十分に広くて臓器が出たり入ったり簡単に出来る場合は放置していても問題はありませんが、たくさんの小腸がいっぺんにヘルニア門からはまり込むと、小腸に血液が行き届かなくなって（嵌頓といいます）、そのまま放置しておくと小腸が腐って腹膜炎を起こすことがあるので要注意です（その場合は緊急手術が必要です）。

成人の鼠径ヘルニアの治療法は手術しかありませんが、極めて高齢であったり、さまざまな病気があって麻酔が危険と判断された場合、状態によってはそのまま経過観察とすることがあります。（嵌頓した場合はやはり手術が必要です）。

それ以外の手術が可能な方の場合は、基本的に手術を勧めています。

当科では全身麻酔で小さな傷で行う腹腔鏡を用いたヘルニア手術を積極的に行っております。また、全身麻酔に危険が伴う方や、前立腺手術など下腹部の手術をされている方、腹水が貯まっている方の場合は、腰椎麻酔で従来の方法で手術を行っております。

症状が疑われる場合、一度当科外来へご相談ください。

（月・金の午前中、水曜の午前・午後に外来診療を行っております）。

（名寄市立総合病院外科・竹林徹郎）